

KODAK Gray Scale



76
3155



吾妻古産の序

吾妻古産の序
 昔附て賣らるる物競ふるは江戸の好むを
 見せ先を鯉を料る庖丁のかうり成
 賞やう吟あふべし。されば此地の甘味を
 知り諸國へ遠く運ぶる御儀えの程はさ
 士農工商入り交り花見遊山や新橋へ
 群集、賣らるる物競ふるは江戸の好むを
 其花嫁のちりせ捲きあつたあつた片が
 ちり捲きあつたあつた片が
 うらぶらぶらめせしるる我吾妻のみやけ
 と歌号せし古橋の古産は先玉子と
 瓶を馬の鼻にさしつけしは拙者なり
 かきこむるは江戸の好むを

花壇に住み
 花壇に住み
 花壇に住み

江戸名所 参詣遊山 金丸せんまぐ 三編

七月七日 延喜式神代 朔 又百座漢流儀鬼
 内拜 延喜式神代 朔 又百座漢流儀鬼
 見ゆり 延喜式神代 朔 又百座漢流儀鬼
 同日 延喜式神代 朔 又百座漢流儀鬼
 秋七月 延喜式神代 朔 又百座漢流儀鬼
 青山 延喜式神代 朔 又百座漢流儀鬼

七
 七日 延喜式神代 朔 又百座漢流儀鬼
 延喜式神代 朔 又百座漢流儀鬼
 延喜式神代 朔 又百座漢流儀鬼

六 延喜式神代 朔 又百座漢流儀鬼
 延喜式神代 朔 又百座漢流儀鬼
 延喜式神代 朔 又百座漢流儀鬼

史 延喜式神代 朔 又百座漢流儀鬼
 延喜式神代 朔 又百座漢流儀鬼



彼岸 延喜式神代 朔 又百座漢流儀鬼
 中丁 延喜式神代 朔 又百座漢流儀鬼
 中比 延喜式神代 朔 又百座漢流儀鬼
 九月 延喜式神代 朔 又百座漢流儀鬼
 十日 延喜式神代 朔 又百座漢流儀鬼

八
 八月 延喜式神代 朔 又百座漢流儀鬼
 延喜式神代 朔 又百座漢流儀鬼

延喜式神代 朔 又百座漢流儀鬼
 延喜式神代 朔 又百座漢流儀鬼

九
 九月 延喜式神代 朔 又百座漢流儀鬼
 延喜式神代 朔 又百座漢流儀鬼

延喜式神代 朔 又百座漢流儀鬼
 延喜式神代 朔 又百座漢流儀鬼

のみ井 酒 河 春 井 心

酒 井 心 井

世の中はまよひの世酒を
のんではすまじき井のこ

極楽のまよひを金とばなれど
さげあさ困らうとあふ二井

酔風のよはとも酒のよはま
こひこまこいこまこ三井

あつらひは清き酒を飲む
酒をうらみあはれなれ井

あひ押へぬまをうらむを酒と
ひとすすけも又井ありさ

酒のあつらひのよは酒のこ
のんではすまじき井

身の内を酒のよは酒のこ
七井までうらむ酒のよ

酒のよは酒のよは酒のよ
すまの世まで酒のよ八井

酒のよは酒のよは酒のよ
こひよは酒のよ九井とらふ

長命の業は酒のよは酒のよ
まよひのよは酒のよ十井

酒 井 心 井

長命の業は酒のよは酒のよ
のよは酒のよは酒のよ

春のよは酒のよは酒のよ
若し酒のよは酒のよ

酒のよは酒のよは酒のよ
あつらひのよは酒のよ

酒のよは酒のよは酒のよ
あつらひのよは酒のよ

酒のよは酒のよは酒のよ
あつらひのよは酒のよ

酒のよは酒のよは酒のよ
あつらひのよは酒のよ

酒のよは酒のよは酒のよ
あつらひのよは酒のよ

酒のよは酒のよは酒のよ
あつらひのよは酒のよ

酒のよは酒のよは酒のよ
あつらひのよは酒のよ

酒のよは酒のよは酒のよ
あつらひのよは酒のよ

三都
流行

諸軍談講譯讀物評定躋

左位木火土金水

神武正統記
楠公三代記
繪合太功記
聖德太子記
前々太平記
後太平記
赤穗義臣傳
江濃寐物語
甲越軍記
通俗三國志

太平記石山
大原大岡谷
西園靈現記
慶安太平記
菅公一代記
一休水鏡錄
大岡仁政錄
彦山靈現記
二島美雄記
岩見裏郎
尾割傳內
小栗馬術傳
仙代女敵討

雪園物多
淺草靈現記
高田馬場記
平井權八
伏見敵討
合邦之辻
白木屋約
熊坂長範
養老孝々
中將姫
大舟由來
倭姫御一代記
妹脊山傳

世話人
和漢三才圖繪
古事記
續日本紀
元亨釋書
延喜式
神奈行夏
異哉軍談
三國靈傳
新備訳

行

神代日本書記

古今和哥集
和哥之三神
西行山家集
和哥万葉集

頭

都名所倭彙

神佛得問答
年中行事
取
百人一首
地獄極樂樂

勸進元
只四十七字傳

四十九字講譯

右位仁義禮智信

神功三韓征
源平盛衰記
近江源氏
釋迦八相記
前太平記
曾我物語
伊賀越誓討
傾城姫物語
小田信長記
漢楚軍談

熊谷二代記
安土大向答
安部仲右記
繪本仙代萩
弘法一代記
西行代記
沢柳音傳
殿下茶屋
金毘羅利徳
細川太平記
日本駐右門
奥平太左記
宗禪寺敵討

小倉之色紙
箱根靈現記
千丈松敵討
御堂前敵討
傾城百萬石
權日記
八百屋お七
石川五右門
石童丸
夜啼石
材木金助
吉備公御一代記
平泉軍記

世話人
行者御代記
親鸞御代記
日蓮御代記
清正一代記
秀郷一代記
舟慶一代記
晴明一代記
青砥一代記
新講訳

新板歌舞妓狂言宛らび

貸入る宝物どうけのりきさふ
利是出〜とぞ思ふことか

か月のそのりじは行むらうさぞ
たのいとも華あがむことか

お社たへち大さなこの海りり
作りあまひ物のでことか

糸見世の女子がよ揃さげそ
あ〜と小はてのりひひ

此道ちらうきんとこのけさ
ポイント切まぬことか

長板のほさくま〜とぞ思ふ
りのち小雀ん小出ことか

寶の初の名とま〜とぞ思ふ
納へても合ぬことか

むやん人の後姿いり〜とぞ思ふ
おのさののり〜とぞ思ふ

物使上使の賣りのい〜とぞ思ふ
本係ど〜とぞ思ふ

志ゆりらん打とハットまのり
本の根り〜とぞ思ふ

お家の伯女いり〜とぞ思ふ
押れのり〜とぞ思ふ

故ゆらの流人が大切〜とぞ思ふ
出世せり〜とぞ思ふ

善どののり〜とぞ思ふ
あげ代揃〜とぞ思ふ

えさの場へ集海の位出〜とぞ思ふ
さいせん〜とぞ思ふ

大壺で大せ〜とぞ思ふ
のつ〜とぞ思ふ

世活場の門は〜とぞ思ふ
〜とぞ思ふ

松の木〜とぞ思ふ
〜とぞ思ふ

〜とぞ思ふ
〜とぞ思ふ

〜とぞ思ふ
〜とぞ思ふ

〜とぞ思ふ
〜とぞ思ふ

〜とぞ思ふ
〜とぞ思ふ

〜とぞ思ふ
〜とぞ思ふ

〜とぞ思ふ
〜とぞ思ふ

〜とぞ思ふ
〜とぞ思ふ

青物奉季種交々事
 青物奉季種交々事
 青物奉季種交々事

青物奉季種交々事

一 けせりとも中女出せみかかんと同らんひ
 ごとりゆりゆりト村心松芽せり後
 成者更ううたけさうり様ごがらうりく
 よこんせうはひ西実正也種り去らうがの
 三月不草の三月近中奉の種人ほりとの心
 定の種取ともあかへんあかへん中うらうら
 御列次とてさうりさうり人あかへんあかへん
 せんかめうとあてと股大根三つ塔くはひた
 ちうりた地りだいも頸様りり種もあかへん
 うけの中種は後宗もあかへんあかへんあかへん
 そろ陳者君三牧く又山見んえんさうり人あかへん
 和尚の種は後種は青物一札仍る如件
 松葉三年柿分
 菓子香
 大根を尻右邊の板

なまこ人せり
 後人竹の香あり

かみじらりんとての番附

勸業元系山律の真本

養賢人土坂だんぢり引ん

あづのいぬ

みどりのう

大関 ぐくらのまらのや

大関 ありやまのりこのけ

関脇 ぶとまよとくお市け

関脇 びつちりしん

小結 いぬのありはざ

小結 ざりのらりごと

前頭 せんごまよめおせしら

前頭 三十さのりしん

前頭 よまのいぢのふんどし

前頭 多のらうふんどし

前頭 よんがのたとこひ

前頭 いぢごこのふんせん

前頭 賢仕まてつうとわり

前頭 ちんづのしん

前頭 うひめらのとげ

前頭 やこのつよまげ

前頭 を夫た中つうこのあ

前頭 まりおこの

前頭 でぐくらののん

前頭 おこふくのん

前頭 女界のむん

前頭 りよはうふ代

前頭 てのらのまうとん

前頭 せけこのせに

前頭 こちあしのひる孫

前頭 あさぐかのさり

前頭 海このあづとん

前頭 上のあつとん

前頭 とごまのひん

前頭 中おのひん

前頭 むまのおちん

前頭 そらうのさと

前頭 如井の水のまのあ

前頭 ちうのうたぬ

前頭 ちのまのたこん

前頭 てんじのかさ

前頭 いぢのいん

前頭 せらめんたび

行司 倉くらこのひも

行司 とびつこのた

頭取 せうやうののち
三十三のむか
くたのちのち

頭取 ちうがん
たいのち

得世 貝は世



貝といふ文字ハひしく世に於て文字ありて
 ありしをいふてたれをト申すありたるき
 尤もある花貝とて風ぬちりくさく貝
 指をあかして千巻貝ありひの貝の行
 認ひおもひひき程もあま同貝ゆうせん
 隣ふ千巻貝これぞ今下の花貝といふも
 りげのつらますれ貝心のそとせうりせ
 貝やうくくうきよき魚貝のつら申す物
 ちのり平ぐ三門運の貝時お貝をさす
 うごう花貝をたけくこれと魚貝あぞも
 あまよとと行魚貝もてうきまのり
 貝ひちぐあて赤貝みぬみのうきく
 おうくこれトぬうふのゆりもあはじ
 やとてあつちこのとまぐめ貝これぬき
 ろもやまあたるものト下とるもの
 以てて貝まぐめ貝ありきあまうてあま
 たてこれト貝の貝三つ貝をぬふはと
 や貝あてと貝のあるものゆとまゆたの
 貝やまのまぬれはあんなく此代のたま
 ぐり貝はあのだう入まのせうちく残
 りとらくく

か保りちらにむは校

食積

積りし保りちらのやむい
はたつてふかちちりてふ
すこもちりてふやむい

多指

このめせんてくむじとあり
べーよふのめとされに回つて
たぐれんせむてハ別なり

諸家

あがんてう東のめはよむ
いふふかちちりてふやむい
あふせんがむてふ

家宅

あまふちちりてふやむい
あふせんがむてふ

用か

大の元才一とありてふやむい
あふせんがむてふ

女房

あふせんがむてふ

令

あふせんがむてふ

慥忠

あふせんがむてふ

任憑

あふせんがむてふ

不實

あふせんがむてふ

食積

けんせむてふやむい
あふせんがむてふ

海

あふせんがむてふ

捕殺

あふせんがむてふ

官判

あふせんがむてふ

公判

あふせんがむてふ

下人

あふせんがむてふ

下女

あふせんがむてふ

下見

あふせんがむてふ

高貴

あふせんがむてふ

高貴

あふせんがむてふ

浮世にたゞ一人の鬼を斬

たぐさるる方

まじくみる方

大関 金ものちの志いんぼう

大関 いろけをちかきとせ

関脇 むすめの志をぬきま

関脇 を夫よあるかむろ

小結 よめいしをのむささん

小結 ちうとめまうくお城

前頭 後部のせこやま

前頭 白徳つものむんさう

同 よさうくーのめらら

同 後一やのめいどん

同 ちうまりの志んをま

同 中一筆のどくどら

同 けのふのほめあが

同 おやまのちうかやて

同 ぶんがう人のちうーあ

同 志ゆうくこのふめち

同 すまじくしのおみごー

同 十華もつぐく葉の露

同 うよまうするていーあ

同 お家さあおあわや

同 おあごのわんま

同 おとあーいあ

同 露のまの風のおやう

同 高きよたつてん舞

同 ちのわうの志のぞうあが

同 ぶせうーの酒のうら

同 うさうのせらもの

同 志のりーの本むく

同 ちういんの志のやま

同 やまのわぐのうらけ

同 やまめの志ーみ

同 志のやまのむさぎ

同 ままのあんなま

同 仕おせの 常 旗

同 おあごのいもずさ

同 かたあごのまをさーの

同 ちかすこのあうどま

同 志の洋ありのまうぶ

同 志ゆうじんすのち

同 志又六のあうをち

同 ちゆうの志ゆうじんす

同 そうがのりのうらち

同 ちゆうの志ゆうじんす

同 志ゆうの志ゆうじんす

同 ちゆうの志ゆうじんす

同 志ゆうの志ゆうじんす

同 ちゆうの志ゆうじんす

同 志ゆうの志ゆうじんす

同 ちゆうの志ゆうじんす

同 志ゆうの志ゆうじんす

同 ちゆうの志ゆうじんす

同 志ゆうの志ゆうじんす

同 ちゆうの志ゆうじんす

同 志ゆうの志ゆうじんす

同 ちゆうの志ゆうじんす

同 志ゆうの志ゆうじんす

同 ちゆうの志ゆうじんす

同 志ゆうの志ゆうじんす

行司 志ゆうの志ゆうじんす

行司 志ゆうの志ゆうじんす

昔者此子安んずる家行の古きことりて
お福もろくは福業を吹もや初春を初と作
中を東葉に吐く子集やむら虎の通仲有
老もろくは酒を解きりぬる
そ歌謡鼓うたぬうく元なり後や
元かうや徳のむらうのむらうや
福のむらう福のむらう
あきし水産をなすかき屋を
のむらあむらむらむらむら
口中入りしむらむらむら

名のしこ

赤い玉
赤子初秋

意の序述



